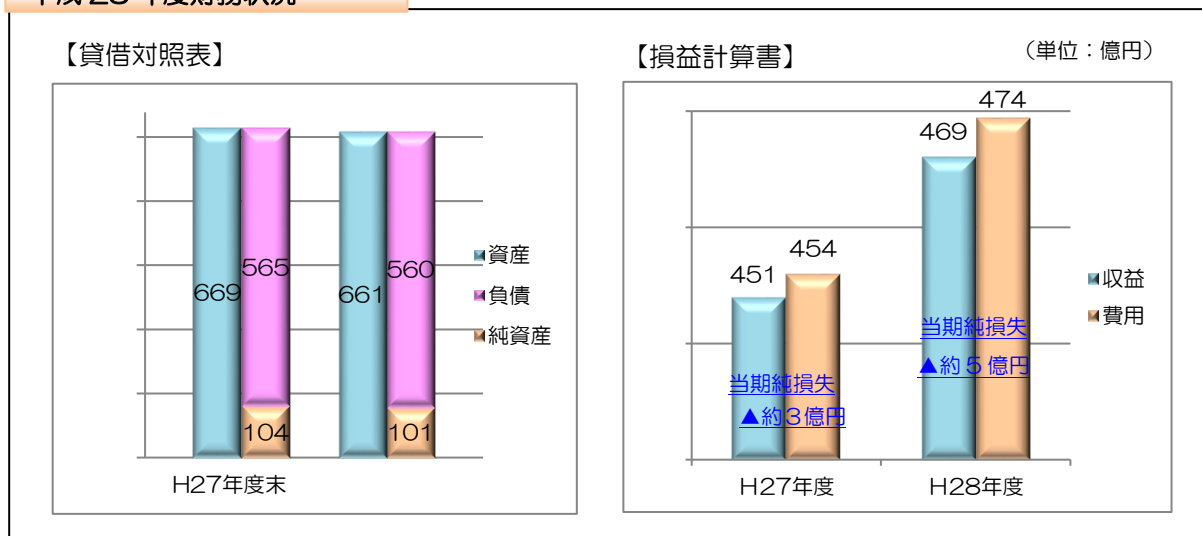


平成 28 年度決算の概要

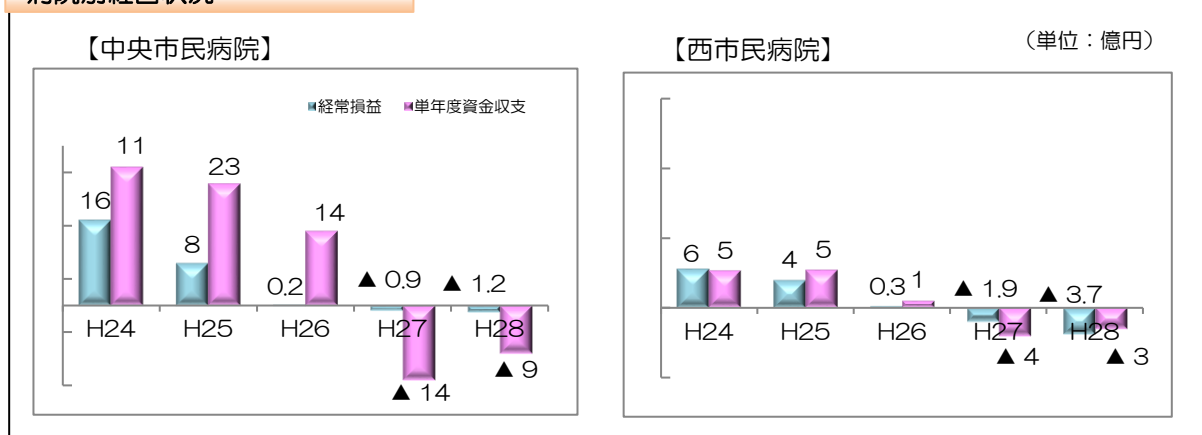
医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、職員一丸となって経営改善策を実施することにより、収益の改善や経費の削減等に努めたものの、消費税負担の影響及び給与費の増、高度医療の提供等による費用の増加に伴い、経常損益及び当期純損益については、約 5 億円の赤字となりました。単年度資金収支については、現中央市民病院関係の起債償還に伴う公債費の負担が大きく、約 12 億円の赤字となっています。

経営に対する取り組みとしては、診療体制の充実、DPC を活用した効率的な病床運用や連携の推進等に引き続き取り組んだ結果、診療単価の増加等に表れ、医業収益が増加となりました。また、年度計画の達成に向け、院長による全部門ヒアリングを引き続き実施し、組織目標や課題認識の共有、課題解決への取り組みを通して、PDCA サイクルの確立や全職員の経営意識の向上を図りました。

平成 28 年度財務状況



病院別経営状況



平成 29 年度においては、西神戸医療センターの移管や先端医療センター病院の統合、神戸アイセンター病院の開設といった事業規模の拡大を迎える中、さらなる収益の確保（DPC 入院期間を意識した病床運営による入院単価の向上等）や固定費を中心とした費用の削減（委託業務の見直し、システム保守経費の縮減等）に積極的に取り組み、年度計画の着実な実行及び達成に努めます。

今後も、地域医療の中核を担い、市民の生命と健康を守るという市民病院としての使命を果たすため、質の高い医療の提供、患者サービスの一層の向上、地域医療機関等との連携強化に努め、だれもが安心して医療を受けられる病院を目指します。